

優秀賞

たったひとりのおとんと

千葉県 千葉市立新宿小学校一年 國府田 陽貴

ぼくには五さいしたのおとうとがいます。でもほいくえんるとき、ずっとひとりっこでした。おともだちがきょうだいとあそぶのを見て、うらやましくて、どうしてもぼくもきょうだいほしいとおもいました。いっしょにあそべるおとうとがほしいとおもいました。だから、ほいくえんのかえりみちに、まいにちそれのかみさまに、「おとうとがきますように」っておねがいました。

あるひおとうさんとおかあさんが
「あかちゃんがきたよ。」

とおっておなかのしゃしんをみせてくれました。ぼくはそのひドキドキしてなかなかねむれませんでした。

そのひからぼくはおかあさんがぐあいかわるいきはやすませてあげたり、にもつをもってあげたりしました。おかあさんにげんきなあかちゃんをうん

でほしかったからです。

ぼくはあかちゃんがおおきくなるのがたのしみでかならずいっしょにびょういんにいきました。かんごしさんは

「いまはこれくらいだよ。」

とおってにんぎょうをみせてくれました。そのにんぎょうがだんだんおおきくなっていくのがたのしみでした。

おかあさんのおなかがおおきくなってきたころ、びょういんでせんせいが

「おとこのこです。」

とおきました。ぼくはとびあがってよろこびました。そのひからぼくはおとうとのなまえをこっそりかんがえました。ぼくはせがちいさくてくやしいおもいをしていたので、おおきくなれそうだなまえがいいなどおもいました。なかなかきまりませんでした。

もしぼくがほいくえんにいってるときにおかあさんのおなかがいたくなくてもパワーをあげられないときあげられるようにおまもりをつくりました。

もくようびのよなかおかあさんのおなかがいたくなくてくるまでびょういんまでいきました。ねむくてもくるまのなかではねませんでした。でもびょういんにつくといつのまにかねてしまいました。つぎのび、あさはやくにおばあちゃんにおこされて、あかちゃんがうまれるへやにいきました。おかあさんがいたそうでした。なのでぼくのパワーがつうじるようにおまもりをわたしてあげました。あせもいっぱいかいていたのでタオルでふいてあげました。

「ふへっ。」

となくこえがしてやっと、おとうとがうまれました。とてもちいさくてしわくちやでした。そっただっこしました。

おとうとのなまえは、せいやにきまりました。せがのびるようにぼくがかんがえました。おかあさんにあまえてばかりでずるいけど、せかいでいちばんかわいいかわいいぼくのおとうとです。

